

社会科学の基礎 A	教 授 丸山高行
-----------	----------

1. 授業のねらい・概要

本講義では、極めて広い学問領域である「社会科学」について、エッセンスを効率よく学ぶことを目標とする。また、単なる試験対策の知識吸収にとどまらず、これから学生諸君が立派な社会人として活躍するための基礎固めができることを目指す。まず「社会科学の基礎 A」では、政治・法律領域を扱う。

2. 授業の進め方

基本的には、参考文献等に基づき講義形式で行うが、一方通行の授業ではなく随所でケース・スタディを提示し、相互ディスカッションを含め、共に考える時間をとるようにする。

3. 授業計画

1. イントロダクション： この科目の講義内容、進め方や評価方法 2. 政治学の基礎(1)： 政治原理と政治思想の変遷、主要国の政治制度 3. 政治学の基礎(2)： 選挙制度の基本、政党および圧力団体の活動 4. 行政学の基礎(1)： 日本の官僚制度の特色、構造と役割 5. 行政学の基礎(2)： 地方自治の基本理念、機能と財政 6. 国際関係の基礎(1)： 国際連合の歴史と主要機関 7. 国際関係の基礎(2)： 核不拡散および人権擁護に関する重要な条約	8. 国際関係の基礎(3)： ODA をはじめとする様々な国際協力活動 9. 法律概論(1)： 法源（法の存在形式）、法の解釈と分類 10. 法律概論(2)： 日本の法体系、英米法および大陸法 11. 日本国憲法総論(1)： 憲法の意義と役割、基本的人権の保障 12. 日本国憲法総論(2)： 日本国憲法における統治機構 13. その他の重要な法律(1)： 民法および刑法の基礎 14. その他の重要な法律(2)： 会社法およびその他の重要な法律 15. 全体のまとめ： これまでに学んだことの整理、今後の課題の提示
---	--

4. 到達目標

社会科学のうち政治・法律関係の基礎が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。また、現実社会の様々な時事問題にも適宜触れるので、政治学や法学との関連性を考えながら、より深く研究しようという意欲が高まることを期待する。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

随所でケース・スタディを提示するので、予習として、問題点の整理や解決方法の模索を行ってほしい。また、授業後は、参考文献・ノート等に基づき復習して、自分なりに講義内容を体系立てて身につけておくことが望ましい。

6. 成績評価の方法・基準

100 点満点の評価を、次の 3 つの要素に分ける。①授業に対する受講姿勢（20 点）、②随所で提示されるケース・スタディについて課されるレポートの内容（20 点）、③期末試験の成績（60 点）。

7. テキスト・参考文献

参考文献として、細川幸一『大学生が知っておきたい生活のなかの法律』慶應義塾大学出版会をあげておく。また、授業の都度、適宜関連資料を配布する。

8. 受講上の留意事項

履修状況を見て、上記授業計画の一部を変更することもありうる。
また、理解度を見て、適切な参考文献を随時紹介する。